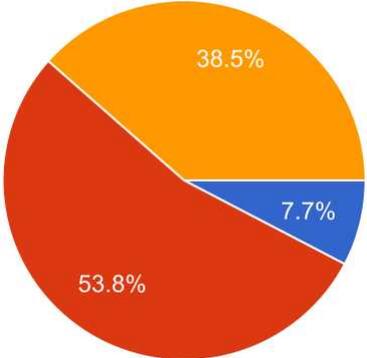
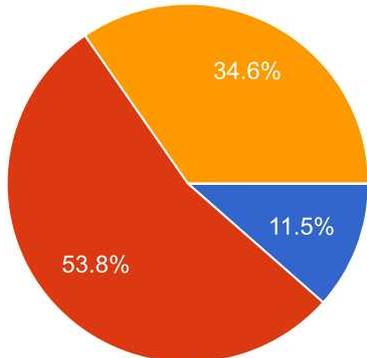
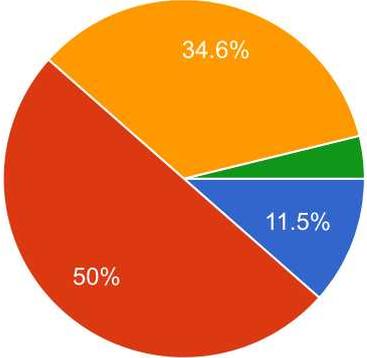


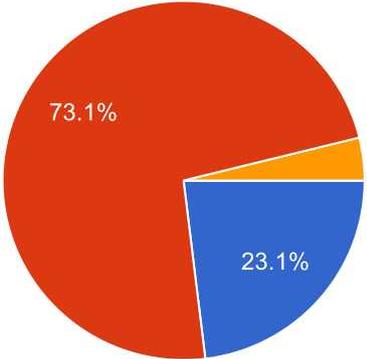
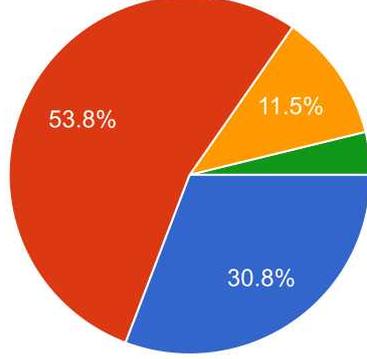
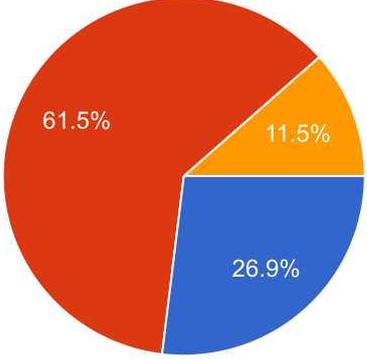
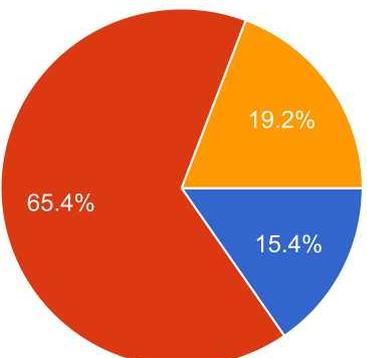
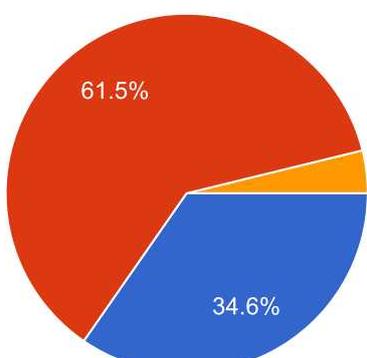
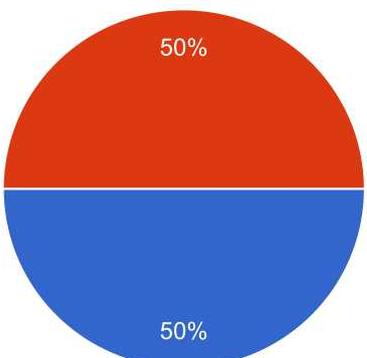
【分析方法】

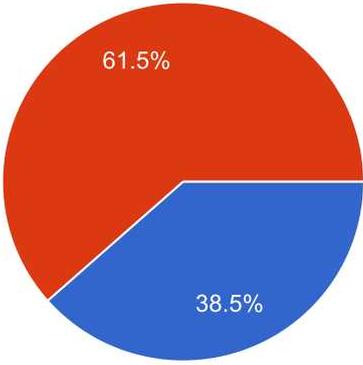
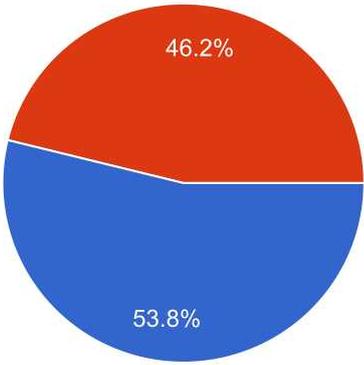
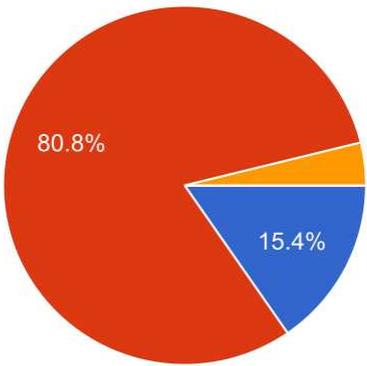
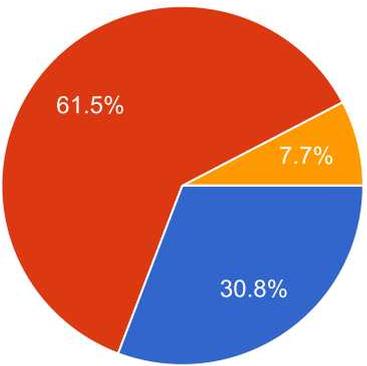
4件法（A：達成，B：ほぼ達成，C：あまり達成されていない，D：達成されていない）でアンケートを実施した。評価された項目の割合を円グラフで示すとともに，学校経営努力点に関しては，参考としてAから順に4点，3点，2点，1点と得点化し，それぞれ平均値を算出した。保護者アンケートについて前年度から改善された項目などを把握するため，年次比較も合わせて行う。回収率は，職員が100%（26回答/26対象），保護者が100%（58回収/58配付）であった。

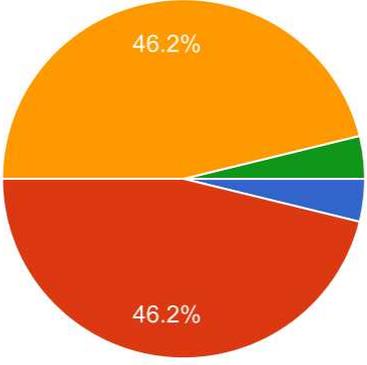
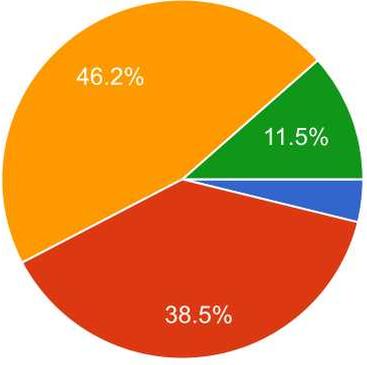
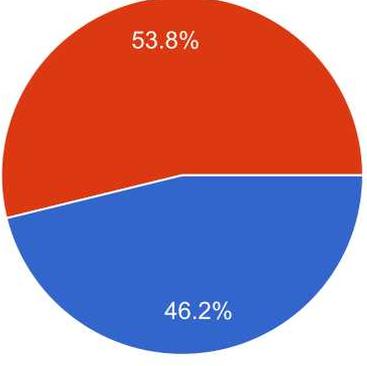
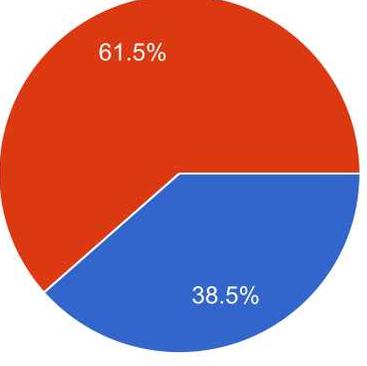
I 学校経営努力点(回答数 26, 回収率 100%)

I 評価結果 (数字は平均値)

(I)一人一人の教育的ニーズを的確に把握し，適切な指導や必要な支援を充実する。 ● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組) 		
ア PDCAサイクルに基づいた個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用の在り方を再確認する。	イ 授業ミーティングを活用して，資質・能力の育成の視点による授業改善を行う。	ウ GIGAスクール構想に基づき，特別支援教育におけるICT活用に努め，実践事例を蓄積する。
		
今年度：2.7 前年度：2.8	今年度：2.8 前年度：3.4	今年度：2.7 前年度：2.7

(2)児童生徒の健康や校内外の安全を確保し、安全指導や生徒指導、保健指導を充実する。 ● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組) 		
ア 児童生徒の生命を守り育む視点に立ち、一人一人の実態に応じた安全指導や生徒指導、保健指導を徹底する。	イ 危機管理マニュアルの更新を行い、感染症や事故、災害等に関する報告・連絡・相談・確認システムを徹底し、児童生徒の生命・健康を守るための迅速できめ細かな対応を行う。	ウ ヒヤリハット事案や安全点検に基づいた教育環境の整備を行う。
		
今年度：3.2 前年度：3.5	今年度：3.1 前年度：3.6	今年度：3.2 前年度：3.2
(3)附属学校の役割や機能を生かし大学との共同研究を深め、専門性や資質の向上を図る。 ● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組) 		
ア 大学・学部の特別支援教育、教科教育等の教員との共同研究や県教委、市教委及び県内外の特別支援教育関係者と連携した、還元性の高い実践的研究を推進する。	イ 研究テーマに基づいた実践研究により専門性を深めるとともに、協働態勢のもと教員相互に資質向上に努める。	ウ サービスに関する研修等を通して、一人一人がハラスメントやコンプライアンスへの意識を高め、信頼される学校づくりに取り組む。
		
今年度：3.0 前年度：3.2	今年度：3.3 前年度：3.4	今年度：3.5 前年度：3.2

<p>(4)力量のある教員を養成するため、大学・学部と連携して教育実習等の一層の充実を図る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組)
<p>ア 大学の第4期中期計画と連動しながら実習生指導の重点を整理し、授業づくりや児童生徒への指導に関する実践力の養成及び指導教員としての指導力の向上に努める。</p>	<p>イ 介護等体験、高校免許取得者の実習、採用前実習等の企画・運営及び教職大学院の探究課題に基づく実践演習の充実を、全校態勢で進める。</p>	
		
<p>今年度：3.4 前年度：3.4</p>	<p>今年度：3.5 前年度：3.5</p>	
<p>(5)児童生徒・保護者・地域と共にあり、責任を果たす開かれた学校の創造をめざす。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組)
<p>ア 児童生徒の学習環境の向上と附属学校としての責任を果たすため、施設設備、情報機器、教材・教具等の整備・充実を図る。</p>	<p>イ 学校見学会や体験学習、ホームページ、広報誌などを通じて学校の機能を広く発信するとともに、児童生徒の余暇活動の充実に向けた積極的な支援を行う。</p>	
		
<p>今年度：3.1 前年度：3.1</p>	<p>今年度：3.2 前年度：3.2</p>	

<p>ウ 児童生徒が主体となって行う、地域貢献活動の可能性について検討し、試行する。</p>	<p>エ 全職員で業務の削減と改善に取り組み、働き方改革を推進する。</p>
	
<p>今年度：2. 5 前年度：2. 3</p>	<p>今年度：2. 3 前年度：2. 8</p>
<p>(6) 教育相談等の支援体制の充実を図り、センター的機能を果たすための支援を継続する。</p> <p style="text-align: right;">● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組)</p>	
<p>ア 幼稚園、保育所、小・中・高等学校在籍の特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒のニーズに応じた支援を行うとともに、就学前教育相談の充実を図る。</p>	<p>イ 附属学校園特別支援教育推進委員会の機能化を図り、学部・附属学校園と連携した巡回相談や現職教員研修等を通し、特別支援教育の一層の推進を図る。</p>
	
<p>今年度：3. 5 前年度：3. 4</p>	<p>今年度：3. 4 前年度：3. 4</p>

2 結果と考察（学校経営努力点に関する内容）

(1) 教育的ニーズの的確な把握と指導及び支援の充実において、個別の教育支援計画と個別の指導計画の活用の在り方に関しては、4割で「あまり達成されていない」と評価している。自由記述の内容から考察すると新書式に移行して3年が経過し、様々な指導の形態において、教育の内容を意識した授業づくりができるようになってきている反面、計画や評価の記入に時間を要することや活用しきれていないといった課題が明らかになってきている。計画的な運用において、負担を感じる、計画的に作成することができていないといった意見が増えてきており、昨年度よりも「あまり達成されていない」と評価した割合も増加傾向にある。活用の在り方においては、難しさを感じる一方で、指導に生かせるものにしていきたいといった改善への意欲も多く記述されている。来年度に向けて、個別の指導計画の内容から書式についてカリマネ委員会で検討を続けて

きているところであるが、引き続き、運用と活用の両面からの改善を行っていく必要性が伺える。授業ミーティングの活用に関しては、65%の割合で達成、ほぼ達成の評価であったが、昨年度から約30%下げている。資質・能力の育成の視点による授業改善に有効であることは確かであるが、授業ミーティングを用いた授業改善から、授業ミーティングの考え方を踏まえた日々の授業改善へと変わってきていると考えることもできる。また、授業改善という点で考えると、授業研究会は時間設定があるのに対し、授業ミーティングは個又は担当者間で行うため、共通で時間設定することが難しいこと、学校研究における実践において、より個の発達に着目した研究へと移行していることで、授業ミーティングによる授業改善の履歴を残す機会が減っていることも要因と考える。GIGAスクール構想に基づくICT活用に関しては、「達成及びほぼ達成」の評価が6割、「あまり達成されていない、達成されていない」という評価が4割という結果であった。自由記述を見ると、新しいアプリの研修等が有効である意見がある一方で、ICT活用の実践となると具体的なイメージが持ちづらいことが伺える。引き続き、ICT活用に関する研修の機会を長期休暇等に設定しつつ、実践事例を蓄積・共有し、長期的な視点で事例集等を提案していくことも必要であると考える。

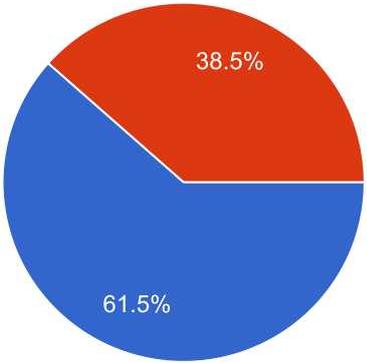
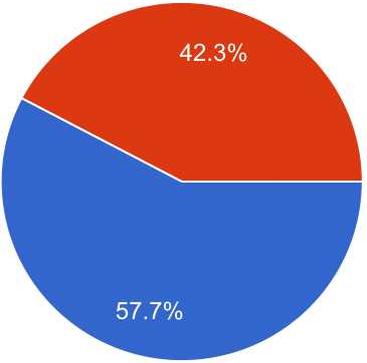
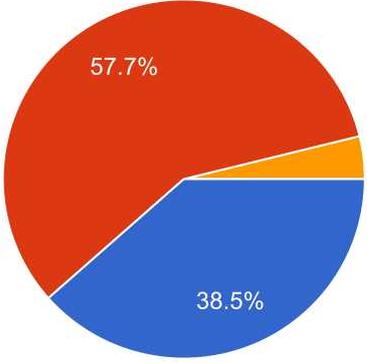
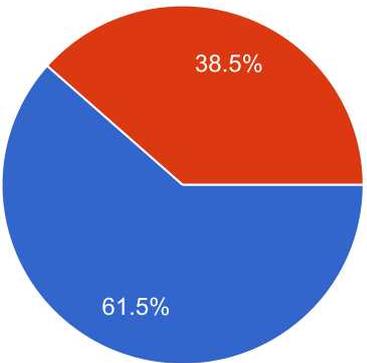
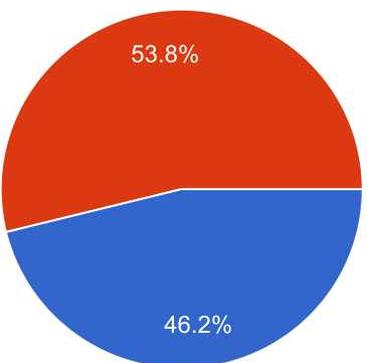
- (2) 児童生徒の安全指導・生活指導・保健指導に関しては、三つの努力点全て、約85%以上が「達成及びほぼ達成」という高い評価であった。感染症対策を考慮しながらの学校生活になり、3年が経とうとしており、保健指導への高い意識が定着してきていると考える。昨年度から平均値を下げた理由として、感染症に対する国の対応が変化してきたことに伴う、学校・個人としての対応の難しさや曖昧さがあるのではないかと考える。危機管理マニュアルの運用については、「あまり達成されていない」と評価している職員も増えている。自由記述の意見から判断すると、更新ができていないのではないかと、危機管理マニュアルとは別に校外学習時の対応マニュアルを作成することが求められ、危機管理マニュアルの意義など、危機管理マニュアルの在り方に関する意見が述べられている。児童生徒の命を守る視点から、今後の危機管理マニュアルの運用と更新、ヒヤリハットの内容の共通理解、毎月の安全点検の確実な実施など職員間の共通理解を図って行う必要があると考える。その他、教育環境の整備に関して、事務の先生方の日々の取組への感謝が多く記述されていた。今後は、事務の先生方に頼るだけでなく、定期的な職員作業の設定など、教員ができる環境の整備について、具体策を考えていく必要がある。
- (3) 大学との共同研究や実践研究に関しては、三つの努力点全てにおいて、80%以上で「達成及びほぼ達成」と高い評価であった。学校研究として新たなテーマでの研究が始まり、全体研究の実施方法や縦割りグループでの校内研究会に向けた実践など、工夫しながら取り組んできたことが、高い評価につながっていると考える。今後は、次年度の公開研究会に向け、大学や教育委員会とのより一層の連携や研究協力を行いながら、特別支援学級や特別支援学校への還元性、取り組みやすさ等も考慮した研究のまとめに向け、具体的な改善点、方向性を明確にしながら研究を進めていくことが求められる。
- (4) 教育実習に関しては、二項目ともに「達成及びほぼ達成」と評価しており、高い評価であった。本校の使命の一つである教育実習校としての役割を十分果たしていると考えられる。今年度も教育学部と幾度と感染症対策を協議し、実施可能な教育実習の形態を模索しながら教育実習を行ってきた。今後ますますニーズが増えてくると予測される特別支援学校教員免許の取得希望者に応じた教育実習受入体制や教職大学院実践実習の在り方など、教育学部と連携して取り組んでいく必要がある。一方で、自由記述には、課題や改善を求める意見も複数記述されている。学校として、これからの特別支援教育の担い手となる実習生に、教育実習で何を、どのような取組を通して学んでほしいのか整理していくことも考えていきたい。
- (5) 開かれた学校という視点では、項目によって評価のばらつきが見られた。学校見学会や体験学習に関しては、9割以上の教員が「達成及びほぼ達成」と評価している。今後も、ホームページ等を活用して教育活動等を広く発信していき、地域のニーズに応えていきたい。アの施設設備、情報機器、教材・教具の整備・充実に関しては、徐々に施設設備を整えつつあり、昨年度同様9

割近い職員が「達成，ほぼ達成」と評価している。一方，項目ウの「児童生徒が主体となって行う地域貢献活動の可能性について検討し試行する」ことに関しては，50%の教員が「あまり達成されていない又は達成されていない」と評価している。昨年度と同様の傾向であり，感染症予防の観点から地域に出掛ける活動が一部制限されたことと具体的にどの活動を地域貢献活動と位置付けているのか明確になっていなかったことが背景にあると考える。エの働き方改革の推進に関しては，約6割の教員が「あまり達成されていない又は達成されていない」と評価している。感染症対策のために一つ一つの活動に異なる対応が必要であり，計画の見直しや改善，副案の設定等業務が増えたことが背景にあると考えられる。自由記述においても，職員数に対する業務の量に関する意見や，働き方改革の意識が低くなってきていることが伺えるような意見も見られた。働き方改革の本質的な意義である，教育の質の向上のため，業務の優先度を考え，職員一人一人の取組を大事にししながら，学校としての働き方改革の具体的な方針を示していくことが求められる。

(6) 教育相談等の充実に関しては，すべての教員が「達成及びほぼ達成」と評価していた。項目イの附属学校園の巡回相談や研修等での特別支援教育の推進に関しては，ほとんどの教員が達成及びほぼ達成と評価している。自由記述には，入学者選考の出願数と早期教育相談事業における体験学習との関連性についての意見も出されている。

II 校務分掌活動(回答数 26, 回収率 100%)

I 評価結果

総務部		
教務・教育課程	教科用図書・公簿	交流教育
		
今年度：3. 6	今年度：3. 6	今年度：3. 3
人権同和教育	情報・視聴覚教育	
		<ul style="list-style-type: none"> ● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない(未取組)
今年度：3. 6	今年度：3. 5	

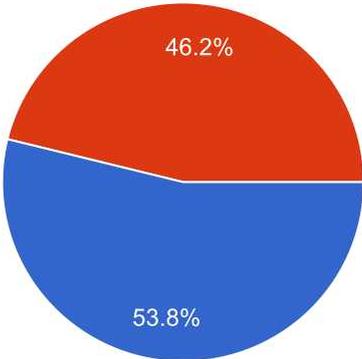
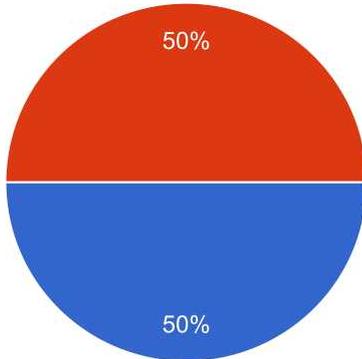
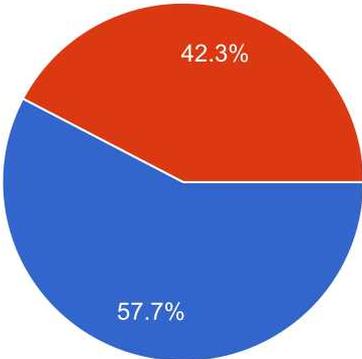
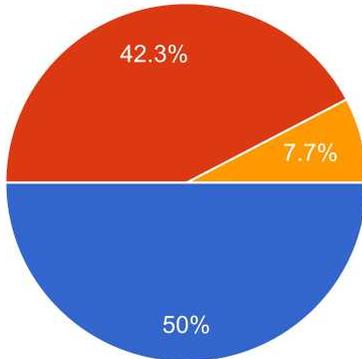
教育実習部	研究部
教育実習	研究部
今年度：3. 4	今年度：3. 3

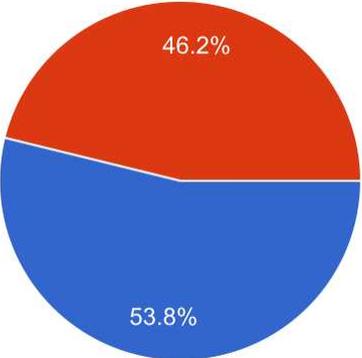
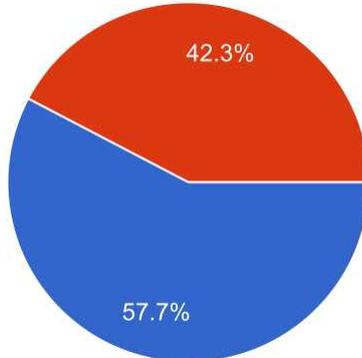
支援部		
校内支援①個別の教育支援計画・個別の指導計画	校内支援②関係機関との連携及び校内教育支援委員会	校外支援①附属学校等支援
今年度：3. 0	今年度：3. 3	今年度：3. 3
校外支援②早期教育相談事業等	校外支援③小中学校等支援	校外支援④入学者選考委員会・学校見学会
今年度：3. 5	今年度：3. 5	今年度：3. 4

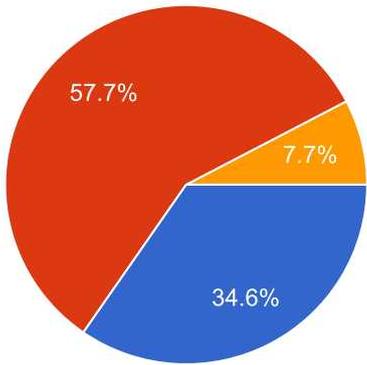
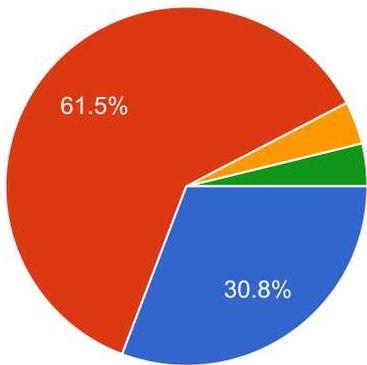
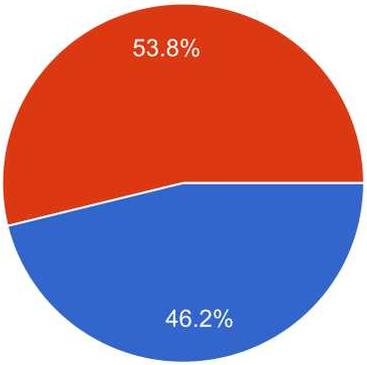
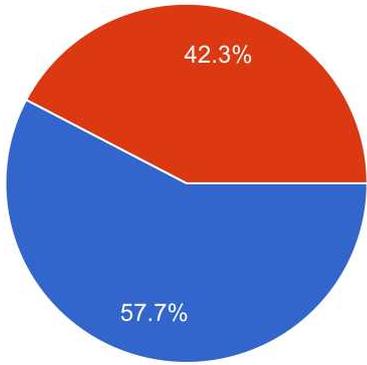
自立活動部	
自立活動	
今年度：3. 3	

進路指導部	
進路指導	卒業生支援
今年度：3. 5	今年度：3. 3

生徒指導部		
生活・読書指導	学校行事	児童生徒会
今年度：3. 5	今年度：3. 6	今年度：3. 6

保健指導部	
保健・給食指導	学校安全
	
今年度：3. 5	今年度：3. 5
体育指導	環境整備
	
今年度：3. 6	今年度：3. 4

渉外部	
広報・渉外	P T A
	
今年度：3. 5	今年度：3. 6

分掌その他	
<p>厚生部</p> 	<p>一心会・明伸会</p> 
<p>今年度：3. 3</p> <p>学校評価委員会</p>	<p>今年度：3. 2</p> <p>教職大学院</p>
	
<p>今年度：3. 5</p>	<p>今年度：3. 6</p>

2 結果と考察(校務分掌活動に関する内容)

- (1) 総務部の四つの分掌いずれにおいても、ほぼ、「達成」、「ほぼ達成」の評価を得ている。交流教育に関しては、出前授業による事前指導を行うことで、交流が充実してきている。また、情報・視聴覚に関しては、GIGAスクール構想による機器の整備面の充実が進んでいるが、機器の運用面での難しさの指摘もあり、担当する系の業務量についても考えていく必要がある。教育課程編成に関しては、カリキュラム・マネジメントを行っていく上で、教育課程編成作業の効率化を図っていくことも求められている。
- (2) 教育実習部について、「達成」、「ほぼ達成」と高い評価となっている。コロナ禍においても、附属学校の使命である教育実習の充実とその役割を果たしていると言える。今年度は、実習部が示した三観点での学習指導案の書き方を基に、実習生に指導してきた。目標等を考える難しさに加え、実習期間が短くなったこともあり、実習生指導の在り方に関する自由記述もある。事前指導を含め、教育実習で大切にしたいことを明確化していきたい。
- (3) 研究部について全員が「達成」、「ほぼ達成」と高く評価している。今年度は、特に発達の視点と学びに向かう力・人間性等に焦点を当て、校内研究会に向け一人一実践を行った。校内研究会で指摘があった用語、定義、課題等については、今年度の残りの期間で共通理解を行い、次年度の実践に向け、全員で研究を深めていくことが求められる。

- (4) **支援部**では、校外支援については、四つの業務いずれも高い割合で、「達成及びほぼ達成」と評価している一方、校内支援①の個別の教育支援計画及び個別の指導計画の運用に関する業務内容に関しては、「あまり達成されていない」と評価が約 20%という結果になった。これは、学校経営努力点（1）ーアと同じ傾向にある。今後は、個別の指導計画の様式を含め、計画的かつ具体的な運用方法等を提案、実施していくことが求められる。また、作成した個別の指導計画、教育支援計画を指導にどのように活用していくのか、活用の面からの提案も期待したい。校外支援に関しては、相談内容の守秘義務等があるため、係以外の職員に取組内容が分かりづらいところもある。定期的に支援部の取組の状況を報告することや可能な範囲で相談に対する対応等、情報を共有することで、職員全体のコーディネーターとしての資質向上につなげていくことができると良いのではないだろうか。
- (5) **自立活動部**では、96%の教員が「達成」、「ほぼ達成」と評価している。夏季休業中には、教育学部の片岡先生による職員研修を行い、新版K式発達検査の実際や結果を通して、子どもの見取り方等について具体的な研修が実施できた。自由記述には、様々な発達検査や知能検査の結果の活用や時間における指導の在り方、抽出による自活など、今後検討していく必要がある意見が複数挙げられている。
- (6) **進路指導部**については、進路指導と卒業生支援いずれも高い評価を得ているが、卒業生クラブに関して、卒業後の余暇や学校とのつながり等、意見が挙がっている。卒業生クラブは、卒業後3年間までの卒業生の余暇活動の充実に向けて、2か月に1回程度活動を企画・実施している。感染症対策のため、実施できた回数が少なかったが、全教員が分担して活動支援に当たっている。卒業生クラブの目的や卒業後の支援体制についての意見が出されている。
- (7) **生徒指導部**では、生活・読書指導、学校行事、児童生徒会のいずれも高い評価を得ている。学校行事にあたっては、今後も先の見通しが見えないが、過去3か年の取組を基に、新型コロナウイルスの感染状況に応じた対応をしていく必要がある。委員会活動について、朝の時間設定や日常生活の指導とのバランスに関する意見があった。教育課程係との連携を図りながら、時間や回数等検討をしていく必要がある。また、学校経営努力点とも関連するところで、学校行事の取組にある地域貢献活動に関する記載から、新たな取組の提案等を期待する声も挙げられた。
- (8) **保健指導部**については、いずれの業務において、「達成」、「ほぼ達成」の高い評価であった。少数ではあるが、「あまり達成されていない」として挙がっていた課題は、環境整備である。施設の老朽化等、職員では対応できない部分はあるが、教室等の整理・整頓や事務の先生方に頼らない環境整備の在り方について問題提起されている。係を中心に、職員作業の充実が求められる。
- (9) **渉外部・分掌その他**では、それぞれの係において、おおむね高い評価を得ている。一心会・明伸会に関しては、評価が分かれているが、感染症の拡大により、会自体がなかったことや各学校への負担の増加を心配することから、「達成されていない」と評価していると考えられる。

Ⅲ その他

Ⅰ 評価結果(回答数 26, 回収率 100%)

	平均値	質問項目	結果 1 思う 2 まあまあ思う 3 余り思わない 4 思わない															
Ⅰ 学校全体	3.8	ア 職員会議は計画的に実施され、適切な審議がなされている。	<table border="1"> <tr><th>結果</th><th>回数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>22</td><td>84.6%</td></tr> <tr><td>2</td><td>4</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	結果	回数	割合	1	22	84.6%	2	4	15.4%	3	0	0%	4	0	0%
	結果	回数	割合															
	1	22	84.6%															
	2	4	15.4%															
	3	0	0%															
4	0	0%																
3.9	イ 運営委員会では、必要な事項が十分に審議されている。(運営対象者のみ)	<table border="1"> <tr><th>結果</th><th>回数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>15</td><td>88.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>2</td><td>11.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	結果	回数	割合	1	15	88.2%	2	2	11.8%	3	0	0%	4	0	0%	
結果	回数	割合																
1	15	88.2%																
2	2	11.8%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.7	ウ カリ・マネ委員会では、必要な事項が十分に審議されている。(対象者のみ)	<table border="1"> <tr><th>結果</th><th>回数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>9</td><td>69.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>4</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	結果	回数	割合	1	9	69.2%	2	4	30.8%	3	0	0%	4	0	0%	
結果	回数	割合																
1	9	69.2%																
2	4	30.8%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.5	エ 自分にとって公務上必要な情報が適切に伝達されている。	<table border="1"> <tr><th>結果</th><th>回数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>12</td><td>46.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	結果	回数	割合	1	14	53.8%	2	12	46.2%	3	0	0%	4	0	0%	
結果	回数	割合																
1	14	53.8%																
2	12	46.2%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.4	オ 学校行事(年間, 月)は、適切に組まれている。	<table border="1"> <tr><th>結果</th><th>回数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>9</td><td>34.6%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	結果	回数	割合	1	14	53.8%	2	9	34.6%	3	3	11.5%	4	0	0%	
結果	回数	割合																
1	14	53.8%																
2	9	34.6%																
3	3	11.5%																
4	0	0%																

1 学校全体	3.0	カ 学校の教育目標や重点目標について、具体的に説明できる。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>4</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>2</td><td>17</td><td>65.4%</td></tr> <tr><td>3</td><td>5</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	4	15.4%	2	17	65.4%	3	5	19.2%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage															
	1	4	15.4%															
	2	17	65.4%															
3	5	19.2%																
4	0	0%																
3.6	キ 学校の年間指導計画を活用して、指導や支援の充実を図っている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>16</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>2</td><td>10</td><td>38.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	16	61.5%	2	10	38.5%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	16	61.5%																
2	10	38.5%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.5	ク 学校の教育課程全体で、組織的に児童生徒を育てていくように意識している。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>12</td><td>46.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	14	53.8%	2	12	46.2%	3	0	0%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	14	53.8%																
2	12	46.2%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.2	ケ 目指す教育活動のために、学校全体で実施される会議等において積極的に発言するようにしている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>11</td><td>42.3%</td></tr> <tr><td>2</td><td>9</td><td>34.6%</td></tr> <tr><td>3</td><td>6</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	11	42.3%	2	9	34.6%	3	6	23.1%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	11	42.3%																
2	9	34.6%																
3	6	23.1%																
4	0	0%																
2 学部・学級	3.7	ア 学部会は計画的に実施され、学部の運営は、工夫・改善されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>17</td><td>65.4%</td></tr> <tr><td>2</td><td>9</td><td>34.6%</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	17	65.4%	2	9	34.6%	3	0	0%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage															
1	17	65.4%																
2	9	34.6%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.2	イ 学部内の仕事が公平（能力的・経験的）に分担されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>7</td><td>26.9%</td></tr> <tr><td>2</td><td>16</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	7	26.9%	2	16	61.5%	3	3	11.5%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage																
1	7	26.9%																
2	16	61.5%																
3	3	11.5%																
4	0	0%																

2 学部・学級	3.7	ウ 学級のペア間で情報の連携が適切に行えている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>19</td> <td>73.1%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7</td> <td>26.9%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	19	73.1%	2	7	26.9%	3	0	0%	4	0	0%
	Category	Count	Percentage															
	1	19	73.1%															
	2	7	26.9%															
3	0	0%																
4	0	0%																
3.6	エ 学級事務等は公平（能力的・経験的）に分担されている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>15</td> <td>57.7%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11</td> <td>42.3%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	15	57.7%	2	11	42.3%	3	0	0%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage																
1	15	57.7%																
2	11	42.3%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.7	オ 学級経営に係る仕事は工夫されている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>17</td> <td>65.4%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9</td> <td>34.6%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	17	65.4%	2	9	34.6%	3	0	0%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage																
1	17	65.4%																
2	9	34.6%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3.8	カ 同僚と共に、児童生徒の成長を伝え合い、喜びを共有している。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20</td> <td>76.9%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6</td> <td>23.1%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	20	76.9%	2	6	23.1%	3	0	0%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage																
1	20	76.9%																
2	6	23.1%																
3	0	0%																
4	0	0%																
3 授業	3.0	ア 授業ミーティングは効果的に活用されている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8</td> <td>30.8%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>12</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>19.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>3.8%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	8	30.8%	2	12	46.2%	3	5	19.2%	4	1	3.8%
	Category	Count	Percentage															
1	8	30.8%																
2	12	46.2%																
3	5	19.2%																
4	1	3.8%																
3.2	イ 組織的に取り組む授業研究は、学校の課題解決に役立っている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9</td> <td>34.6%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>14</td> <td>53.8%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>7.7%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>3.8%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	9	34.6%	2	14	53.8%	3	2	7.7%	4	1	3.8%	
Category	Count	Percentage																
1	9	34.6%																
2	14	53.8%																
3	2	7.7%																
4	1	3.8%																

3 授業	3.3	ウ 思考力・判断力・表現力などの評価や実施に取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>評価</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>17</td><td>65.4%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	評価	人数	割合	1	8	30.8%	2	17	65.4%	3	1	3.8%	4	0	0%
	評価	人数	割合															
	1	8	30.8%															
	2	17	65.4%															
3	1	3.8%																
4	0	0%																
4 個人	2.8	ア 個人で自分なりにテーマを持ち研究を進めている。	<table border="1"> <tr><th>評価</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>5</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>13</td><td>50%</td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td>26.9%</td></tr> <tr><td>4</td><td>1</td><td>3.8%</td></tr> </table>	評価	人数	割合	1	5	19.2%	2	13	50%	3	7	26.9%	4	1	3.8%
	評価	人数	割合															
	1	5	19.2%															
	2	13	50%															
3	7	26.9%																
4	1	3.8%																
2.9	イ 担当している部や係などの仕事は負担なく取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>評価</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>2</td><td>12</td><td>46.2%</td></tr> <tr><td>3</td><td>8</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	評価	人数	割合	1	6	23.1%	2	12	46.2%	3	8	30.8%	4	0	0%	
評価	人数	割合																
1	6	23.1%																
2	12	46.2%																
3	8	30.8%																
4	0	0%																
3.2	ウ 学習指導要領改訂など、教育施策の動向に感心をよせ、学ぶようにしている。	<table border="1"> <tr><th>評価</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	評価	人数	割合	1	8	30.8%	2	14	53.8%	3	4	15.4%	4	0	0%	
評価	人数	割合																
1	8	30.8%																
2	14	53.8%																
3	4	15.4%																
4	0	0%																
	2.9	エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを発揮している。	<table border="1"> <tr><th>評価</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>4</td><td>3</td><td>11.5%</td></tr> </table>	評価	人数	割合	1	6	23.1%	2	14	53.8%	3	3	11.5%	4	3	11.5%
評価	人数	割合																
1	6	23.1%																
2	14	53.8%																
3	3	11.5%																
4	3	11.5%																

2 結果と考察（学校全体，学部，個人に関する内容）

(1) 学校全体

9項目中8項目において、8割以上の職員が「思う」、「まあまあ思う」と評価している。項目ケの「目指す教育活動のために、学校全体で実施される会議等において積極的に発言するようにしている」は、23%の職員が「あまり思わない」と評価している。会議等がリモートで行われることが多かったことにより、発言への抵抗が大きくなっていることや相手の表情が見えないことでの発言のしにくさ等が考えられる。今後は、対面での会議が増えていくことも予想されるが、リモートであっても、必要に応じて、ブレイクアウトルームの活用や近くの職員と話す時間の設定等、意見を出しやすくする工夫が求められる。

(2) 学部・学級

6項目すべての項目において、88%以上が「思う」、「まあまあ思う」と評価している。自由記述からも、学級担任間や学習担当者間での語り合いや職員同士の支え合いに関する意見が挙げられた。業務量については、限られた勤務時間の中で、時間を効率的に使っていくための会議・話し合いの在り方などを指摘する声もある。学校経営努力点の働き方改革にも関わってくるが、削減できる業務や書類等の手続きについて、学校全体で考えていくことが求められる。

(3) 授業

アの授業ミーティングの活用に関して、約20%が「あまり思わない」、「思わない」と評価している。学校経営努力点の授業ミーティングを活用した授業改善に関する項目の結果と同様の結果となった。昨年度まで取り組んできた研究内容における授業ミーティングの形で行う授業改善が減ってきていると言えるのかもしれない。しかし、自由記述を見ると、子どもの姿について語り合いながら、授業の計画をしていることが伺える。子どもの姿を基にした教師間の日々の語り合いの中に授業ミーティングの考え方が浸透してきていると捉えることができるのではないだろうか。イの授業研究会に関しては、約10%が「あまり思わない」、「思わない」と評価している。これは、学部によって実施できた回数が異なったことが要因と考えられる。授業研究会は、学部経営の一つで、より良い授業づくりや教師としての学び合いの機会としての重要な取組になっているため、年度初めに、年間を通した計画を示し、可能な限り全員が授業提供できるように、取組を工夫していくことが求められる。また、自由記述を見ると、「学校の課題解決に役立っている」という質問の意図を問う記述があった。質問の内容についても検討していきたい。

(4) 個人

イの仕事への負担に関して、30%が「あまり思わない」と評価している。附属学校ということで、授業だけでなく、研究や教育実習など業務量が多いのが現状。さらに感染症対策で、学習活動にも常に変更や代替案などが求められるようになってきている。このことによる負担の増加が結果として現れたと考える。学校経営努力点にある働き方改革と関連させ、業務量の削減や効果的な分担について、具体的な取組が求められる。

IV 保護者アンケート

I 評価結果(回答数 58, 回収率 100%)

※4件法(A:達成, B:ほぼ達成, C:あまり達成されていない, D:達成されていない)でアンケートを実施した。Aから順に4点, 3点, 2点, 1点と得点化し, それぞれ平均値を算出した。

	質問項目	全体平均		
		R 2	R 3	R 4
教育活動	① 学校・学部・学級の教育方針や教育目標に添った取組がなされている。	3.7	3.7	3.6
	② 子どもたちの実態や課題に応じた授業が行われている。	3.7	3.6	3.6
	③ 感染症予防に努め, 子どもたちに応じた特色ある学校・学部行事が行われている。	3.6	3.8	3.7
	④ 連絡帳や学級通信等は, 学校や授業での取組をよく伝えてある。	3.6	3.8	3.7
	⑤ 通知表「あゆみ」は見やすく, 子どもの成長や課題をよく伝えてある。	3.7	3.7	3.8
	⑥ 個別の教育支援計画による教育方針は, 分かりやすい。	3.7	3.7	3.7
	⑦ 教師は, 子どもをよく理解し, 真剣に対応している。	3.7	3.8	3.7
	⑧ 教師は, 保護者の悩みや相談に親身に対応している。	3.7	3.8	3.6
	⑨ 教師の対応は, 丁寧で適切である(子どもとの関わりなど)。	3.8	3.9	3.6
教育環境	⑩ 充実した教育活動を行う施設や設備が整っている。	3.2	3.3	3.1
	⑪ 校舎や教室などの清掃や片付けが行き届いている。	3.4	3.5	3.3
	⑫ 危険箇所などへの対応, 安全配慮がなされている。	3.5	3.5	3.4
連携	⑬ 学校は, 家庭と子どもの目標に協力して取り組んでいる。	3.5	3.6	3.6
	⑭ 学校は, 家庭と日常的に連絡を取り合っている。	3.7	3.8	3.7
	⑮ 学校は, 保護者の研修(進路に関する勉強会等)に対して協力を行っている。	3.5	3.7	3.7
	⑯ 学校は, 的確な支援を実施するために関わる福祉, 医療, 労働等の関係機関と連携を取り, 必要な情報を保護者に提示している。	3.5	3.5	3.5
その他	⑰ 感染症予防に努め, PTA活動は, PTA会員の意思を反映し, 計画的に行われている。	3.5	3.7	3.5
	⑱ 子どもは, 毎日楽しく登校している。	3.8	3.8	3.8
	⑲ 子どもたちの成長を感じている。	3.7	3.9	3.8

2 結果と考察(保護者アンケートに関する内容)

- (1) 教育活動においては、全ての項目において、平均値 3.6~3.7 の高い評価を得ている。しかし、9 項目中 6 項目で、昨年度からわずかではあるが評価が下がっている。今年度、PTA 総会が感染状況から紙面実施としたことや懇親会等の中止もあり、学校教育目標や今年度の取組に関して、保護者に直接説明する機会や保護者と自由に話す機会が減ったことが影響していると思われる。一方、通知表に関する評価は、ほぼ全ての保護者が「達成」、「ほぼ達成」と回答していることから、学級や学部での授業における取組については、目標や評価が保護者に分かりやすく伝わっていることを示している。今後も、日々の連絡帳や情報共有を大事にしながら、保護者に子どもの成長を丁寧に伝えていくことを大事にしたい。また、参観日や教育相談等、保護者とじっくり話せる機会を有効に活用しながら、真摯に対応していくことが求められる。
- (2) 教育環境においては、校舎の老朽化やトイレの改修等を求める自由記述にも表れているように、3 項目全て低い評価となった。⑩については、昨年度までコロナ対応経費等の予算で改善できた部分があったが、今年度は、保護者が見て分かるような施設設備の改修が少なかったことも理由と考える。⑪や⑫については、職員が気付いていない部分の危険箇所や掃除の行き届かない場所があることが分かった。環境整備や清掃等、職員が行う安全点検と職員作業の連携や工夫が求められる。
- (3) 連携においては、4 項目全て平均値 3.5 以上の評価となった。⑬については、放課後等デイサービスを利用する児童生徒の引継ぎで、健康状態を優先的に伝えることが増えたこともあり、学校での様子や放課後等デイサービスでの様子を情報共有することが減ってきたことが影響しているのかもしれない。
- (4) その他においては、⑭感染症予防に努めた PTA 活動に関する質問項目で、昨年度から-0.2 という評価になった。今年度は、感染症対策を取り、工夫をしながら様々な PTA 活動を行ってきている。しかし、コロナ禍以前のように、専門部会を頻繁に行いながら意見を出し合って計画していくことは、まだ難しい状況であるため、「会員の意思を反映し」の部分で評価を下げているのかもしれない。コロナ禍を経て、PTA 活動の変革期であるため、PTA 会員の意見にも傾聴しながら、今後の PTA 活動について、引き続き執行部や専門部長、理事を中心に、学校と連携を図りながら PTA 活動を充実していくことが求められる。